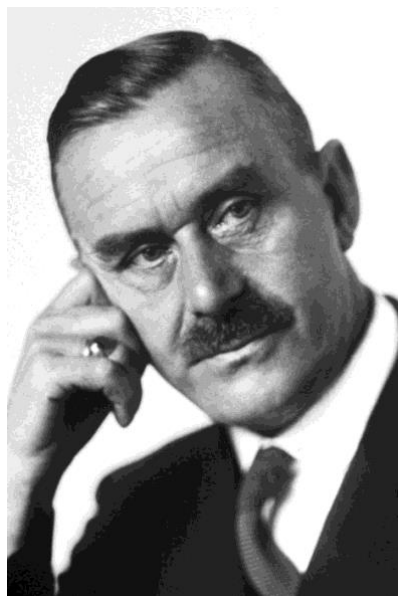


2025年7月22日  
JR 博多シティ会議室 10F  
小黒 康正

九州大学 EU センター 講演資料  
「昭和 100 年」と「トーマス・マン生誕 150 年」



(ウキペディア・ドイツ語版より)

### 講義概要

- 今年は、トーマス・マン生誕 150 年記念の年です。4 月には、九州大学で記念講演会が作家の平野啓一郎氏と鈴木結生氏を迎えて行われ、6 月には、マン生誕の地リュールベックでドイツの大統領を迎えて開催されました。では、なぜ九州大学で行われたのでしょうか。この問いにお答えする形で、昭和 100 年における日本の特異な翻訳文化を浮き彫りにします。当方は『トーニオ・クレーガー』の新訳（岩波文庫）を 6 月に上梓したばかりです。

### 資料構成

- トーマス・マン略年譜
- 講演者の自己紹介
- 三つの問い
  - (1) トーマス・マン生誕 150 年記念行事を、なぜ日本で行ったのか
  - (2) トーマス・マン生誕 150 年記念行事を、なぜ九州大学で行ったのか
  - (3) なぜ講演者は『トーニオ・クレーガー』の新訳に挑戦したのか

## 1 トーマス・マン (Thomas Mann) 略年譜

- 1875年 北ドイツのリューベックに生まれる (6月6日)
- 1894年 南ドイツのミュンヘンに移住
- 1898年 短編小説集『小男フリーデマン氏』
- 1901年 小説『ブデンブローク家の人々 ある家族の没落』
- 1903年 短編小説集『トリスタン』 (『トーニオ・クレージャー』を含む6篇)
- 1905年 カタリーナ・プリングスハイムと結婚
- 1912年 小説『ヴェニスに死す』
- 1918年 評論『非政治的人間の考察』
- 1922年 講演『ドイツ共和国について』
- 1924年 小説『魔の山』
- 1929年 ノーベル文学賞受賞
- 1930年 小説『マーリオと魔術師』
- 1933年 1月30日にヒトラーが政権掌握。2月に講演『リヒャルト・ヴァーグナーの苦悩と偉大』、その後予定していた数週間の講演旅行がそのまま亡命生活に。9月にチューリヒに移住、10月に小説『ヨセフとその兄弟たち』の第1巻『ヤコブ物語』刊行 (同第4巻『養う人ヨゼフ語』刊行は1943年1月)。
- 1938年 アメリカに移住
- 1939年 小説『ヴァイマルのロッセ』
- 1945年 講演『ドイツとドイツ人』
- 1947年 小説『ファウストゥス博士』
- 1951年 小説『選ばれし人』
- 1952年 スイスに移住
- 1954年 小説『詐欺師フェーリクス・クルルの告白 回想録第一部』
- 1955年 チューリヒにて死去 (8月12日)



(リューベック、小黒撮影)

## 2 講演者の自己紹介

### 小黒康正 (Prof. Dr. Yasumasa Oguro)

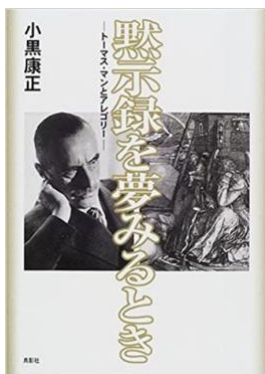
北海道小樽市出身。北海道大学、九州大学、ミュンヘン大学で学ぶ。博士(文学)。元ミュンヘン大学日本センター講師、九州大学大学院人文科学研究院教授、日本学術会議連携会員、日本独文学会前会長、日本独文学会編集長、西日本日独協会副会長など。2024年5月にNHK「100分de名著『魔の山』」に出演。合気道四段(合気道ひの心、福岡道場)。

〔専門〕近現代ドイツの文学と思想

- |                 |   |                      |
|-----------------|---|----------------------|
| 1. トーマス・マン研究    | : | 『魔の山』、黙示録、アレゴリー      |
| 2. 「水の女」の身体論的研究 | : | メールヒェン、ロマン派、I. バッハマン |
| 3. ヘルタ・ミュラー研究   | : | 『心獣』、『呼び出し』          |
| 4. ルードルフ・カスナー研究 | : | エッセイ、観相学             |
| 5. 「第三の国」研究     | : | 黙示録文化、ネオ・ヨアキム主義      |

〔主要業績〕

1. 単著『黙示録を夢みるとき トーマス・マンとアレゴリー』(鳥影社、2001)
2. 単著『水の女 トポスへの船路』(九州大学出版会、2012;新装版2021)
3. 訳書『心獣』(ヘルタ・ミュラー著、三修社、2014)
4. 訳書『呼び出し』(ヘルタ・ミュラー著、三修社、2022)
5. 単著『100分de名著 トーマス・マン「魔の山」』(NHK出版、2024)
6. 単著『「第三帝国」以前の「第三の国」 ドイツと日本におけるネオ・ヨアキム主義』(九州大学出版会、2025)
7. 訳書『トーニオ・クレイガー』(トーマス・マン著、岩波文庫、2025)



業績 1



業績 5



業績 5



業績 6

### 3 三つの問い

(1) トーマス・マン生誕 150 年記念行事を、なぜ日本で行うのか。

- 2025 年は「昭和 100 年」、そして「トーマス・マン生誕 150 年」。単なる偶然？
- 日本におけるトーマス・マン受容
  - 1904 年に初めて紹介される。
  - 1927 年の実吉捷郎（日野捷郎）訳『トニオ・クレゲル』『トオマス・マン短編集』。
  - 1932 年の成瀬無極訳『ブッデンプロオク一家』。
  - 1925 年生まれの吉行淳之介、三島由紀夫、辻邦生、北杜夫。
  - 1930 年代生まれの筒井康隆、倉橋由美子、大江健三郎。
  - 1972 年に高橋義孝、佐藤晃一らによる新潮社版の『トーマス・マン全集』が完結。
  - 1949 年生まれの上村春樹（『ノルウェイの森』の主人公が愛読する『魔の山』）
  - 1975 年生まれの平野啓一郎（『マチネの終わりに』の「ヴェニスに死す症候群」）。
  - 2001 年生まれの鈴木結生（『ヨセフとその兄弟たち』の愛読）
- 2024 年 5 月 NHK 「100 分 de 名著 『魔の山』」
- 2025 年 4 月 26 日「トーマス・マン生誕 150 年記念講演会」（小黒康正、鈴木結生、平野啓一郎、九州大学）
- 2025 年 6 月 5 日～8 日「トーマス・マン生誕 150 年記念式典」（リュウベック）
- 2025 年 6 月新訳『トニオ・クレゲル』（小黒康正訳、岩波文庫）→ 平野啓一郎「本書が存在しなければ、克服され得なかった孤独が、どれほど存在したことか！」
- 2025 年 7 月 22 日西日本新聞の記事「トーマス・マン生誕 150 年 今問うべき二つの「青春」」



(2025 年 6 月 5 日、リュウベックの国際シンポジウム)

● 『トーニオ・クレーガー』 翻訳一覧

1. 実吉捷郎（日野捷郎）訳『トニオ・クレエゲル』（岩波文庫；1927年）
2. 六笠武生訳『トニオ・クレーゲル』（南山堂書店；1928年）
3. 豊永喜<sup>よしゆき</sup>之訳『愛の孤独』（三笠書房；1940-41年）
4. 竹山道雄訳『トニオ・クレーガー』（新潮社；1941年）
5. 高橋義孝訳『トニオ・クレーゲル』（新潮社ほか；1949年、1964、1967、1969、1970、1971、1978、1996、2001年）
6. 浅井真男訳『トーニオ・クレーガー』（白水社ほか；1955、1970年）
7. 片岡啓治訳『トニオ・クレーゲル』（学習研究社ほか；1962、1970、1973年）
8. 佐藤晃一訳『トーニオ・クレーガー』（集英社ほか；1963、1966、1969、1971、1973、1980年）
9. 福田宏年訳『トニオ・クレーゲル』（中央公論社；1965、1994年）
10. 森川俊夫訳『トニオ・クレーガー』（三修社；1966、1969年）
11. 野島正城<sup>まさなり</sup>訳『トニオ・クレーガー』（講談社；1968、1971、1974、1976年）
12. 植田敏郎訳『トーニオ・クレーガー』（旺文社；1970年）
13. 小塩節訳『トーニオ・クレーガー』（主婦の友社；1971年）
14. 圓子修平訳『トーニオ・クレーガー』（集英社；1990年）
15. 平野卿子訳『トーニオ・クレーガー』（河出書房新社；2011年）
16. 浅井晶子訳『トニオ・クレーガー』（光文社新訳文庫；2018年）
17. 小黒康正訳『トーニオ・クレーガー』（岩波文庫；2025年）



（ミュンヘン市庁舎、小黒撮影）

(2) トーマス・マン生誕 150 年記念行事を、なぜ九州大学で行うのか。

- 九州大学は日本におけるトーマス・マン研究の活動拠点。その嚆矢は元九州大学教授の**高橋義孝**を中心に『トーマス・マン全集』（新潮社、1971～1977 年）が編纂されたこと。
- 九州大学教養部教授だった**樋口忠治**は、ドイツで刊行された 13 巻のマン全集をデータベース化し、九州大学大型計算機センターを通じて、1987 年 7 月に「トーマス・マン・ファイル」（現在は「**Higuchi GM Corpus**」）として世界に公開した。同ファイルは、マンに関するデータベースとして世界で唯一のもの。
- **池田紘一**が 1989 年に九州大学文学部に着任すると、同氏のもとにマン研究者が参集し、「トーマス・マン研究会」が立ち上げられた。2025 年秋には、第 130 回研究会を行う。
- **小黒康正**が 2004 年に日本独文学会の委託で行ったドイツ語によるトーマス・マン書誌。  
Yasumasa Oguro (Hrsg.): Thomas Mann in Japan – Neue Bibliographie. In: Neue Beiträge zur Germanistik. Band 3 / Heft 4. Hrsg. von der Japanischen Gesellschaft für Germanistik. 2004 (2005) München, S. 153-277; Yasumasa Oguro : Thomas Mann in Japan – Rezeption und neuere Forschung. Ebd., S. 143-152.
- 日本独文学会機関誌『ドイツ文学』153 号（国際誌、2016 年 12 月発行）所収のトーマス・マン特集「Redseligkeit und Stillschweigen in Texten Thomas Manns（トーマス・マンのテキストにおける饒舌と沈黙）」も重要。日本のマン研究者が結集して行ったドイツ語による研究成果。編集責任者は**小黒康正**。  
Yasumasa Oguro (Hrsg.): Sonderthema *Redseligkeit und Stillschweigen in Texten Thomas Manns*. In: Neue Beiträge zur Germanistik. Band 15 / Heft 2. Hrsg. von der Japanischen Gesellschaft für Germanistik. München 2016, S. 7-168.
- 九州大学附属図書館は、トーマス・マンの手紙やクリスマスカードを所蔵。



(マンの手紙を閲覧する平野氏、2022 年 7 月 11 日、小黒撮影)

### (3) なぜ講演者は『トーニオ・クレーガー』の新訳に挑戦したのか。

これまで16人によって新訳や改訳が繰り返し試みられてきた『トーニオ・クレーガー』を、そもそも新たに訳出する必要があるのだろうか。2023年秋に岩波書店から依頼を受けたとき、私自身、自らにそう問うた。私がこれまで行った翻訳はいずれも本邦初訳である。それはそれで困難を極めたが、既訳がある場合、それも多数の既訳がある場合、心労はもっと大きい。

訳業には後退と進歩が伴う。拙訳の場合、新訳として、当然のことながら、日本の現代社会にふさわしい訳出を心がけた。もっとも、『トーニオ・クレーガー』の訳出で常に問題になる *Bürger* は、「市壁の中に住む人」という原意とその言葉に込められた揶揄を踏まえて、「俗人」「市民」「普通の人」「一般人」と訳されてきたものの、拙訳ではあまり冒険をせず、「市民」という訳語を採用している。前述した芸術家小説の伝統を意識してのことであり、「市民的な名前」*Bürgersname*、「市民性」*Bürgertum*、「市民愛」*Bürgerliebe* などと訳語の統一を図るためでもある。

#### *Bürger* / *Bürgersname* / *Bürgertum* / *Bürgerliebe*

俗人 / 平民の名 / 俗人氣質 / 俗人愛 (実吉訳)

俗人 / 市民の名前 / 俗人性 / 俗人的愛情 (高橋訳)

普通の人 / 名 / 普通の人だというなによりの証 / 普通の人であるぼくの愛 (平野訳)

一般人 / 市民的な名前 / 一般人氣質 / 俗物的な愛情 (浅井訳)

市民 / 市民的な名前 / 市民性 / 市民愛 (小黒訳)

また、よく言われることだが、原文にできるだけ「忠実に」訳した。もっともこの方針にも若干の説明が必要であろう。最近の訳では、読みやすさを追求するあまり、原文にない改行や、原文の一部省略や、名前の一部省略などがあるが、拙訳では、原文に忠実な改行をし、原文の省略はせず、ある意味では直訳を意識している。

名前の表記に関しても、同様に、フルネームを省略したり、人称代名詞の代わりに固有名詞を当てたりはしていない。トーマス・マン研究では、『トーニオ・クレーガー』における命名はかなり意識して区別されていることが知られているので、原文に従って「トーニオ・クレーガー」「トーニオ」「クレーガー」と訳しわけを行っている。そうでないと、学生がレポートや論文などで使えない翻訳になってしまう。ただし、人称代名詞の場合、「彼」や「彼女」などと訳することはできるだけ避けた。日本語の特性を活かし、主語を省略して訳する点では、近年の動向とさほど変わらない。

»Es thut mir leid«, sagte er, »aber ich führe keine Papiere bei mir.«

»So?« sagte der Polizist... »Gar keine? – Wie ist Ihr Name?«

Tonio Kröger antwortete ihm.

»Ist das auch wahr?!« fragte der Polizist, reckte sich auf und öffnete plötzlich seine Nasenlöcher, so weit er konnte... (293)

「お気の毒ですが」と彼は言った。「証明書類は何も携帯していません」

「そうですか」と警官が言った。「まるでなんにも持っていないのですか。——名前は何というのです」

トニオ・クレエゲルは彼に答えた。

「それは実際ほんとうかね」と警官は問うて、ぐっと反身になると、不意にできるだけ大きく鼻の孔を開いた……。 (実吉訳)

「あいにく、そういうものは何も」

「ほんとうで？ まったく何も持っておられないんで？ ——ところで、お名前は？」

トニオは名を告げた。

「ほんとうで？」

そう言って胸を張ると、警官はいきなり鼻の穴をいっぱいに広げた……。 (平野訳)

「すみません」トニオは言った。「書類は持っていません」

「持っていない？」警官が言った。「なにも？ ——お名前はなんと？」

トニオ・クレイガーは名乗った。

「本当ですか？」警官は背筋を伸ばし、唐突に鼻の穴大きく広げて、そう訊いた。

(浅井訳)

「あいにくですが、証明書を携帯しておりません」と言った。

「持ってない？ まったく何も？ ——お名前は？」と警官は言う……

トニオ・クレイガーは相手に答えた。

「本名でしょうな」と尋ねた警官は、身をそらして、いきなり鼻の穴を広げられるだけ広げたのだ……。 (小黒訳)

人名や地名の表記に関しては、原音に近い表記を採用している。訳者自身、「トニオ・クレゲル」や「トニオ・クレーゲル」や「トニオ・クレーガー」という表記にかなり愛着を抱いているが、本訳出では「トニオ・クレーガー」とした。同様の理由で、例えば「ミュンヘン」と表記し、「ミュンヘン」と表記していない。

『トニオ・クレーガー』の最後にある聖書（コリント人への第一の手紙）からの引用についても、若干の説明をしておきたい。多くの既訳が、実吉訳を踏襲して、文語訳聖書にもとづく格調の高い訳出を行っている。また、文全体の主語を、新共同訳聖書の「わたし」やルター訳聖書の「ich」に倣い、一人称単数形にしている既訳も複数見受けられた。ただし、マンの原文では「ich」ではなく、「einer」になっている。訳者自身、既訳の格調高い訳出に馴染んできたひとりだが、実吉訳や高橋訳に対する「深く秘められた自分の愛」を封印しながら、新たな挑戦としてマンの文章を「忠実に」訳した。

Alle Wärme, alle Güte, aller Humor kommt aus ihr, und fast will mir scheinen, als sei sie jene Liebe selbst, von der geschrieben steht, daß einer mit Menschen- und Engelszungen reden könne und ohne sie doch nur ein tönendes Erz und eine klingende Schelle sei. (318)

たとい諸々の<sup>もろもろ</sup>国人の<sup>くにびと</sup>言葉と御使の<sup>みつかい</sup>言葉を語り得とも、もし愛なくば鳴る鐘、響く

鏡<sup>によはち</sup>鉞のごとし（実吉訳）

たとい、わがもろものの<sup>くにびと</sup>国人の<sup>みつかい</sup>言葉および御使の言葉を語るとも、もし愛なくば、

鳴る鐘、響く<sup>によはち</sup>鏡鉞の如し（高橋訳）

たとい我もろものの<sup>くにびと</sup>国人の<sup>ことば</sup>言および<sup>みつかい</sup>御使の言葉を語るとも、愛なくば、鳴る鐘

や響く<sup>によはち</sup>鏡鉞の如し（平野訳）

たとえひとの言葉や天使の言葉で語りえても、愛がなければ、鳴り響く<sup>どら</sup>銅鑼、<sup>かんだか</sup>甲高く鳴るシンバルにすぎない（小黒訳）

16 番目の訳者として、当然のことながら、近年の研究成果を訳に反映させている。実際、**2004 年にドイツで刊行された新しいマン全集**の第二巻を底本として用い（Thomas Mann: Frühe Erzählungen 1893-1912. In: Große kommentierte Frankfurter Ausgabe. Bd. 2. Hrsg. von Terence J. Reed unter Mitarbeit von Malte Herwig. Frankfurt a. M. 2004.）、最新の注釈を参照した。訳者の解説で示すことになるマンのアンデルセン受容も、近年の研究成果であり、訳者自身の調査結果でもある。

参考にしたのは、近年のトーマス・マン研究ばかりではない。**最新のドイツ語学の成果、とりわけ体験話法の研究成果**を取り込むようにした。体験話法は、英米文学で自由間接話法、フランス文学で間接自由談話と称されることが多く、形式上は地の文と同様に三人称過去形で書かれているが、作中人物が抱く一人称の考えを伝える文学技法である。単純な例を英語で挙げておくと、「Tomorrow was Christmas」という表記は「明日はクリスマスだった」ではなく、「明日はクリスマスなんだ」と現在形で訳さなければならない。近年、研究の進捗が著しいドイツ語の体験話法研究は、鈴木康志『体験話法 ドイツ文解釈のために』（大学書林、二〇〇五年）が示すように、トーマス・マンの文章がよく分析対象になる。『トーニオ・クレーガー』には体験話法の使用が実に多い。トーニオの夢幻的な体験の記述は体験話法なくしてありえないのである。

Hier, ganz nahe bei ihm, saßen Hans und Ingeborg. Er hatte sich zu ihr gesetzt, die vielleicht seine Schwester war, und umgeben von anderen rotwangigen Menschenkindern aßen und tranken sie, schwatzten und vergnügten sich, riefen sich mit klingenden Stimmen Neckereien zu und lachten hell in die Luft. [...] Auch war es ja wie immer: sie würden ihn nicht verstehen, würden befremdet auf das horchen, was er zu sagen vermöchte. Denn ihre Sprache war nicht seine Sprache. (312 f.)

ここに、**彼**のついわきに、ハンスとインゲボルグが坐っている。男は、おそらく自分の妹であるらしい女のそばに腰をおろしていたのである。そしてほかの頬赤き人の子たちに囲まれながら、食べたり飲んだりしゃべったり面白がったり、よく響く声でからかい合ったり、宙に向かって大きな笑い声を立てたりしている。〔中略〕それにまた無論いつもの通り、二人は**彼を**理解せぬであろう。**彼が**やっと何か言っ

ても、<sup>けげん</sup>怪訝そうにそれを聞くのであろう。なぜなら彼等の言葉は、彼の言葉とは違うのだから。（実吉訳）

ハンスとインゲボルクとは、すぐすこに、彼にごく近いところに座<sup>すわ</sup>っていた。ハンスは、自分の妹らしい若い女の横に腰を下ろしていた。彼らはほかの頬<sup>ほお</sup>の赤い人間どもにかこまれて食べたり飲んだり、おしゃべりをしたり興がったり、よく通る声で冗談を言いあったり、誰はばからず高らかに笑ったりしていた。〔中略〕またそうしてみたところで例のごとくだったろう。彼らは自分の言うことをわかってくれないだろう。彼がやっとの思いで口にした言葉を、妙な顔をしながら聞くだけのことだろう。彼らの言葉はついに彼の言葉ではないからである。（高橋訳）

ここに、すぐそばに、ハンスとインゲボルクが座<sup>すわ</sup>っている。ハンスはいまインゲの隣にいた。この二人は兄<sup>きょうだい</sup>妹なのだろう。頬を上気させた人たちに囲まれて飲んだり食べたりしながら、おしゃべりを楽しみ、よく響く声でからかいあったり、明るい笑い声をたてたりしている。〔中略〕どうせまたいつもと同じようになる。たとえ何か言ったところで、ふたりにはぼくの言うことがわからず、げげんそうな顔をするだけだろう。だって、彼らとぼくでは話す言葉が違うのだから。（平野訳）

ここに、すぐ近くに、ハンスとインゲボルクがいる。ハンスはいつの間にか、インゲの隣に座っている。インゲはハンスの妹なのかもしれない。ふたりは、頬を紅潮させたほかの人たちに囲まれて、食べ、飲み、おしゃべりをし、楽しみ、よく響く声で互いをからかい合い、明るい笑い声を響かせている。〔中略〕結局これまでと同じことだ。ふたりはトニオのことを理解してはくれないだろう。たとえトニオがなにか言えたとしても、戸惑いながら耳を傾けるだろう。なぜなら彼らの言葉は、トニオの言葉とは違っているからだ。（浅井訳）

自分のすぐ近くのここに、ハンスとインゲボルクが坐っている。ハンスはいつのまにかインゲの隣に座っていたが、女性は妹なのかもしれない。二人は、頬を紅潮させた他の者たちに囲まれて、食べたり、飲んだり、おしゃべりを楽しんだり、よく響く声でからかいあって、明るい笑い声を立てているのだ。〔中略〕どうせいつもと同じことだ。なにか言えたところで、二人は自分を理解してくれないし、いぶかしげに耳を傾けるだろう。なにせ二人の言葉はこっちの言葉と違うからな。（小黒訳）

その他、訳出の際、気になった点をいくつか示す。トーニオ・クレーガーがデンマークで食べていたのは、ライ麦パンのオープンサンド、つまり、デンマークで普通に食べられているスモーブロである。「トースト」という訳もあるが、これだと食パンのトーストになってしまう。Röstbrot は、通常、ライ麦パンを指す。

#### aß geräucherten Lachs auf Röstbrot (306)

燻製の鮭をのせた焼パンを食べていた（実吉訳、圓子訳）

トースト・パンに燻製の鮭をそえて食べていた（高橋訳）

燻製の鮭をのせたトースト・パンを食べていた（佐藤訳）

スモークドサーモンを載せたトーストを食べていた（平野訳）

鮭の燻製をトーストに載せて食べていた（浅井訳）

スモークサーモンをのせた焼きパン〔スモーブロ〕を食べていた（小黒訳）



#### 新訳に対する国内外の評価

- ドイツの公共放送 ARD の記事「Warum Thomas Mann in Japan so populär ist」(*Stand: 06.06.2025 09:25 Uhr*) (<https://www.tagesschau.de/kultur/japan-thomas-mann-100.html>)
- ドイツの全国紙「フランクフルター・アルゲマイネ新聞」の記事（2025年7月3日）(<https://zeitung.faz.net/faz/feuilleton/2025-07-03/15b3bdb97e79efd2809483ecb49046c8?GEPC=s5>)
- 【読書コラム】三島由紀夫はボディビルで、村上春樹はジョギングで「トニオ・クレーゲルを克服した」と訳者が解説で分析していて、トーマス・マン生誕150周年の新訳がめちゃくちゃ面白いんですけど！([https://note.com/nabewata\\_lit/n/n2cdccc535490](https://note.com/nabewata_lit/n/n2cdccc535490)、2025年6月29日現在)